

合同教育研究全道集会 2025

第 17 分科会「地域づくりと子育て・教育・文化・スポーツ」報告

分科会共同研究者 河野和枝

はじめに

第 17 分科会は、2020 年第 18 分科会と統合して再編されて以来 5 年目を迎えました。この間コロナ禍の影響もあり、開催方法が対面からオンライン、開催時間も短縮され午後の時間帯 3 時間を使ってのレポート報告と討論を行うことになっています。この方法が取られない以前は、例年、教職員ばかりでなく親や一般市民も自由に参加していたのですが、やはりオンライン方式は、一般化されたと言っても参加者を限定してしまう現状があります。特に教育関係者以外の参加は残念ながらほとんどみられなくなっている現状です。

同時に当日のレポート報告も共同研究者等が組織するレポート以外は、年々減少傾向にあります。特に学校関係者の地域協同の取り組みの実践が報告されなくなりました。それは、地域と学校で取り組む教育実践（運動）が少なくなったこともあるのですが、教職員事態の多忙化などによって、地域実践を丁寧に拾い上げレポート報告する教職員がいなくなった現象と見る事が出来るのではないかと考えます。

今後、合同教育研究全道集会の主旨と照らして第 17 分科会が、教職員にとって、あるいは親や一般市民にとってどのような位置づけで開催するのが良いのかを検討し整理する必要性に迫られているようにも思います。分科会共同研究者の一人としてその責務を感じています。

今年の第 17 分科会のレポートは 1 本のみ

さて 2025 年度の第 17 分科会について報告します。

当日は 2 本レポート報告が予定されていましたが、レポートタイトル「子どもの権利条約を地域の中へ」と「まおい学びのさと小学校の報告」です。運営者会議で討論の柱立ても準備していたのですが、しかし、残念ながら分科会始まって予定した「子どもの権利条約を地域の中へ」の報告者の参加がありませんでした。運営担当者がどうしたものかと案じていたところ、分科会参加者から「他の分科会で発表していたので第 17 分科会では報告はないものと思います」と発言があり急遽「まおい学びのさと小学校の報告」1 本に切り替えて開始しました。分科会運営者に事前の周知がないということは、かつて経験のないことでしたので戸惑いながらのスタートになりました。それでも分科会参加者 8 名（レポート報告者 1 名、事務局 1 名含め）がそろい今年の第 17 分科会が始まりました。

「まおい学びのさと小学校の報告」レポート～報告者 梶山康太さん

まおい学びのさと小学校は、2023年4月私立小学校認可校として開校した学校です。長沼町立旧北長沼小学校が統廃合された後の校舎を町から借り受け、「子どもが自由に学べる新しい学校を作りたい」と様々な人々がつどい、意を同じくして作りあげた市民立の私立小学校です。学校法人学びのさと自由が丘学園、まおい学びのさと小学校が正式名称です。合同教育研究全道集会へのレポート報告は、ここのところ常連となっていて、開校前の学校づくりに関わった保護者や学校スタッフ含めて4回目のレポート報告です。今年は若手教師、梶山康太さん（愛称ならちゃん）が積極的に引き受け報告してくれました。梶山さんは、まおい学びのさと小学校開校前の準備の段階から体験学習や様々な行事に参加していました。当然開校後はまおい学びのさと小学校に就職するものと思っていたのですが、公立学校の経験をしてからと2024年度からスタッフとして勤務しています。

報告資料は、パワーポイント35枚にもなる気合いを入れての作成で、現在のまおい学びのさと小学校の現状が丁寧に語られる内容でした。開校3年目にして1年生から6年生がそろい総勢96名の子どもたち、学校スタッフ12名と新しい学校づくりに邁進する日常が分科会参加者の心をはっきりと捉え報告時間があっという間に過ぎたほどでした。

報告は、A.S.ニールの「まずは子どもを幸せにしよう。すべてはその後に続く」やジョン・デューイの「1オンスの経験は1トンの理論にまさる」を引用し、まおい学びのさと小学校の設立理念を示しました。その上で教育目標である「感情の自由」「人間関係の自由」「知性の自由」、さらには基本方針である「子どもを一人の人格として尊重し、話し合い、自ら決定する力を育みます」「子ども一人ひとりの個性を大切にすするため、強制、競争、数値評価、序列化はしません」「子どもが生来持つ自由な好奇心・成長力を信頼し、体験による身体的学びを大切にします」を現状としてどのような教育実践をしているかについて話しました。

① プロジェクト中心の時間割編成～今年度は料理、ものづくり、演劇、クラフト、農業の5つのプロジェクトがあり子どもたちが自由に選択し活動している。

② 週一回の全校ミーティング～学校生活を豊かにするためのミーティング、とことん話し合う時間です。決議は、子どももスタッフも同じ一票です。開校3年目でやっと話し合いの場の雰囲気が生まれつつあります。

③ 学年に合わせた基礎学習もしています。

ともかく子どもが意見を出し、子どもたちで決める「自由」＝「放任ではない」ことを貫く徹底した学校づくりをしています。スタッフは、あくまでも子どもたちの軌道

修正に関わる補佐的存在であるが、なかなか難しい役割であると言い、スタッフの研修の大切さを実感すると語りました。失敗しながらも子どもと一緒に成長する教師像が見えてくる報告でした。

報告後は参加者ひとり一人から質問や感想が述べられました。

○「プロジェクト学習は途中で変更できるのか」→「年度当初に2週間の体験あり、決めたら一年間は変更できません」→「子どもは納得しているのか」→「プロジェクトではやりたいことを自由に提案できるので他のプロジェクトと重なる内容も実際にあります」

○「それぞれのプロジェクト人数を知りたい」→「料理20名、農業20名、クラフト12名、ものづくり29名、演劇20名です。農業とものづくりは1年生が多いです」

この他にも公立の場合学校だけでは決められない現実がある。プロジェクトと基礎学習、学力はどのようにしていくのか注目したい。「学力とは何か」をまおい学びのさと小学校から学ぶことが多い。どう主体性を育むのか公立では方策がもてない、まおい学びのさと小学校の実践は主体的学びの試行錯誤がある。など多く出され「学力とは何か」の議論に入ったところで終了時間、議論の続きは来年に持ち越されました。

今年も「教育問題」に関わり多くの話題提供してくれた、まおい学びのさと小学校のレポート報告でした。2027年度からは中学校も開校します。ますます話題提供に事欠かないと思われ次年度の報告を楽しみにしたいと思います。

1本のレポートで3時間があっという間に過ぎた今年の第17分科会でした。